

3次元CADデータ活用

検査システム発売

才研
キャリオ
技

【名古屋】キャリオ技研(名古屋市中村区、富田茂社長、052・627・0495)は、9月にも3次元CADデータを活用したプリント基板など向け検査システム「CAV」を発売する。専用のソフトウェアをインストールしたパソコンと市販のデジタルカメラで検査が可能。検査用モデルが不要で、多品種少量生産品の検査に適している。価格はソフトのみで1000万円。検査物の3次元CADデータと、デジタルビデオカメラで撮影した検査物の映像を情報処理し、照らし合わせる。基板の検査では部品の誤装着や型番の文字、ハンダの形状の誤りなどを検出する。対象物の位置や角度によらず検査可能。検査用モデルが不要で、急な設計変更などに容易に対応できる。工業品だけでなく農作物への応用も目指す。たとえば合格品のリングの形を同社の技術で3次元CADデータに落とし込めば、リングの選別作業にも利用できる。同社は3次元CADデータを使った自動車部品などの設計が主力。今後3次元CADデータの作成ノウハウの他分野への活用を進める。